

経済統計 練習問題

第8回 人口に関する統計(4)

2018年10月22日

問1 人口統計に関して適切でない記述を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「合計（特殊）出生率」は、年齢構成の違いを取り除いた上で、2つの国の出生の水準を比較する場合に使う。
- ② 特定の年における女子年齢各歳別の出生率を、15歳から49歳までについて合計した値は「合計（特殊）出生率」と呼ばれる。
- ③ 65歳以上の人口を15歳未満人口で除して、これを100倍した値は「従属人口指数」と呼ばれる。
- ④ 日本における完全生命表は、国勢調査人口（確定数）や人口動態統計（確定数）をもとに、国勢調査の実施にあわせて5年ごとに作成される。
- ⑤ 生命表において、その生命表の対象年次における年齢別の死亡水準が、その後も変化せずに続いた場合に、 x 歳以降に、平均してあと何年生きられるかを、 x 歳における平均余命といい、出生時における平均余命を平均寿命ともいう。

(統計検定 専門統計調査士 2013)

問2 人口動態統計に関する説明として、適切でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

- ① 「合計（特殊）出生率」とは、その年の女性の年齢各歳別の出生率を15歳から49歳まで合計してえられる値である。
- ② ある年の「合計（特殊）出生率」が2.1を上回っている場合でも、その年の人口が前年に比べて減少することがある。
- ③ 日本では、人口に占める高齢者の割合が上昇していることから、近年、「年齢標準化死亡率」は上昇の傾向にある。
- ④ 「生命表」には、国勢調査の実施年について作成される「完全生命表」と、その中間の年に作成される「簡易生命表」がある。
- ⑤ 「平均寿命」とは、「生命表」の年齢別の死亡率が将来にわたり一定と仮定した場合において、0歳児が平均してあと何年生きられるかを示す指標である。

(統計検定 専門統計調査士 2016)